

# 第4回さがみロボット産業特区協議会 結果概要

日時：平成26年3月28日（金）14:30～16:00

会場：産業技術センター 2階 カフェインルーム

（産業労働局 桐谷局長）

私は本会の進行役を務めさせていただきます、神奈川県産業労働局長の桐谷でございます。

はじめにご承知いただきたいと思いますが、本協議会では内容に個人情報、企業秘密等が含まれていないことを前提とさせていただき、報道機関及び傍聴者に対し会議を公開としております。会議中の撮影等についてもご了承願います。

なお、事務的なご案内ではありますが、会議中ご発言いただく際には、お手元にあるマイクの電源を入れ、赤いランプがつかましたらご発言ください。よろしく願い申し上げます。

では、開会にあたり、会長の黒岩知事よりご挨拶を申し上げます。

（黒岩知事）

神奈川県知事の黒岩祐治です。

本日は、たいへんお忙しい中、第4回さがみロボット産業特区協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。皆様には、日ごろ、県政の推進にひとかたならぬご協力をいただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、今回は本特区の区域内であり、開発・実証実験等の中心地でもある、県産業技術センターでの初めての開催となります。

この「さがみロボット産業特区」が指定されてから、約1年が経ちましたが、この1年を振り返ってみると、かなりスピード感が出てきたかと思えます。我々がこの特区を勝ち取り、まず始めに実証実験を行おうと考えたところ、それには規制緩和が必要だということで、緩和が必要な規制をリスト化して国と協議したところ、特区であるにも係らず、最初の回答は「すべて緩和不可」というものでした。規制を緩和してこそその特区であるのに、それができないとは何事か、それでは名ばかり特区だ、ということをお国に強く申し入れたところ、現在ではほぼすべての規制で前向きな返答が得られました。岩盤規制と言われる農地法についても、事務局が粘り強く交渉を重ねた結果、「この特区内に限り、個別に交渉する」という画期的な緩和策が出てまいりました。体制は整ってきたかと思えますので、これをさらに経済のエンジンを回す力にしていきたいと考えております。

そして、先ほど内閣府から連絡がありましたが、大和市域の特区編入が決定いたしました。これを受けて協議会に新たなメンバーも加わっていただくことになり、これを機に特区パワーを全開にしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

（産業労働局 桐谷局長）

本日の議題は次第のとおりでございます。では、ここから進行は会長であります黒岩知事に代わります。

## 議題及び協議の結果

（1）議題1（さがみロボット産業特区協議会規約の改正等について）資料1

会員の追加（4団体）に係る規約の改正について、協議会委員からの承認を得た。

<新会員>

- ・(株)移動ロボット研究所 様
- ・湘南ロボケアセンター(株) 様
- ・大和市 様
- ・大和商工会議所 様

(2) 議題2（平成25年度の取組結果について）資料2

本特区の平成25年度の取組結果を報告し、了承を得た。

(3) 議題3（平成26年度の事業計画について）資料3

本特区の平成26年度の取組予定を説明し、了承を得た。また、併せていくつかの市町及び企業の方からも来年度の特区に係る取組について伺い、意見交換等を行った。

(黒岩知事)

ただいま県から来年度の取組予定についてご説明させていただきましたが、本日は各市町の皆様にご出席いただいておりますので、来年度予算等を踏まえながら取組予定をお聞かせいただければと思います。ではまず初めに、茅ヶ崎市長様いかがでしょうか。

(服部茅ヶ崎市長)

茅ヶ崎市長の服部です。

本市の中でも、現在いくつかの企業の方が特区に関心を持っており、動き始めておりますので、今後も県と協力して進めていきたいと思っております。特に、身近なところでこうした技術を伝えていくという取組については、県にリードしていただきながら、様々な工夫をしていくことが重要と考えておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

(黒岩知事)

ありがとうございました。

では、厚木市長様いかがでしょうか。

(小林厚木市長)

厚木市長の小林です。

お手元に資料を2枚入れさせていただきましたので、そちらの内容についてご説明させていただきます。

1枚目は「さがみロボット産業特区関連 厚木市の支援制度」と書かれた資料です。

私もはこの「さがみロボット産業特区」関連事業への支援について、25年度から取り組んでまいりました。最初は、市内の中小企業を中心とする、様々なジャンルのロボット開発を進めていこうという有志30社ほどの方々に集まいただき、こういった取組が必要かということ話し合うことからスタートいたしました。そのスタートを受け、平成25年度当初予算で、ロボット産業の推進に資する厚木市独自の制度を創設いたしました。その創設を決めたときは、

まだ「さがみロボット産業特区」指定前でしたが、指定されるだろうという見通しの上で決定いたしました。

厚木市では大きく分けて5つの支援制度を設けており、その内容について簡単にご説明させていただきます。

1つ目は「ロボット産業推進事業補助金」で、これは25年度からスタートしておりますが、26年度は予算を倍増して取り組むものであります。具体的には、先ほど申し上げたとおり、中小企業の方々を中心として自発的なロボット研究・開発を進めている「あつぎものづくりブランドプロジェクト」や「チームアトム」といった団体への、ロボット製品開発にかかる費用の一部補助です。

2つ目は「オープンイノベーション促進補助金」で、神奈川版オープンイノベーションに参加する市内企業を対象に、ロボット研究開発にかかる費用の一部を補助するもので、26年度から新規にスタートします。

3つ目は、来月開催する「テクノフェスタ」ですが、市内のロボット関連企業の技術を多くの方に見ていただくというイベントです。開催場所については、お手元にお配りした資料の2枚目をご覧くださいなのですが、「アミューあつぎ」という複合施設のオープンに合わせて実施いたします。厚木市の持っているロボット関連企業の技術力を前面に出し、積極的な姿勢で開催したいと思っております。

4つ目は「企業立地元気アップサポート事業（企業誘致）」で、ロボット関連企業が特定誘致地区へ立地する際に固定資産税等を5年間免除するとともに、戦略産業奨励金を最大1億円交付する等の事業を、26年度も継続して実施してまいります。

そして、ロボット産業の集積を図っていくためには誘致するスペースの確保が必要ということで、5つ目「土地区画整理推進事業」があります。

以上5つの支援制度の概要をご説明させていただきましたが、先ほど知事からもお話があったとおり、だいぶ規制が緩和されてきたことを感じます。もう一方、国からの財政支援についても、積極的な取組をさせていただいているということで、私どもも心強く思っております。

こういったことをベースに、協議会の皆様とともに、特区の利点を生かした自治体として出来ることを果敢に取り組んでまいりたいと思っておりますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

（黒岩知事）

ありがとうございました。厚木市はかなり先導的に取り組んでくださっており、大変心強く感じました。

平塚市様はいかがでしょう。

（鈴木平塚副市長）

平塚市副市長の鈴木です。

平塚市も産業活性化のために「産業間連携促進事業」に積極的に取り組んでおりますので、「さがみロボット産業特区」は非常にありがたいと感じております。平塚市としては、普及啓発的な意味を含めまして、25年度に平塚商工会議所の工業部会を対象にセミナーを開催し、参加者の皆様からアンケートを回収いたしました。その際のご意見を踏まえ、26年度は研究会を立ち上げる予定です。そのために産学公共同研究支援補助金を設け、企業の方々とは協力しながら推進してまいりたいと思っておりますので、県の音頭でこの「さがみロボット産業特区」の取組を展開してほしいと考えております。

(黒岩知事)

ありがとうございました。  
では、相模原市様いかがでしょうか。

(相模原市)

相模原市につきましては、製造業が基幹産業だということで、これまでも県のインベスト神奈川や相模原市の制度を併用しながら企業誘致を進めてきたところであります。その中でも最近では「さがみロボット産業特区」に関するニーズが高まっていることを感じ、今年度はロボットビジネス研究会を設立し、様々なテーマを企業の方々と研究してまいりました。26年度におきましては、これをさらに進めていこうと考えておりまして、相模原市内には、ロボット技術の基礎となるセンサー技術や油圧技術など様々な技術をお持ちの企業が多くありますし、JAXAもいらっしゃいますので、「介護から宇宙まで」をテーマに掲げ、取り組んでまいりたいと考えております。

また、26年度は、ロボット技術の実用化のネットワークを組織していこうということで、中心的な役割は相模原商工会議所に担っていただく予定です。さらにロボット技術の高度化を図るということで、大学・企業の共同研究の促進もしており、今現在も1つのプロジェクトが挙がっておりますので、今後も支援してまいりたいと考えております。

また、中小企業の技術研究を支援するための補助金もあり、一般ですと費用の1/2以内、上限200万円という補助制度ですが、ロボット関連企業の場合は、この上限を300万円に引き上げるなど、特区推進への支援を進めてまいりたいと考えております。

なお、最終製品という形ではまだありませんが、企業の技術を知っていただきたいということで、PR雑誌やイベント等への出展等についても支援してまいります。

先日は三菱重工業様も、災害対応ロボットの河原での実証実験をしていただきましたし、いろいろな企業の方々と力を合わせて進めてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(黒岩知事)

ありがとうございました。  
藤沢市様はいかがですか。

(藤沢市)

私どもの市では、本日協議会にご加入された湘南ロボケアセンターも開所されたということもあり、新年度からは、湘南ロボケアセンターで実施される、障害のある方がロボットスーツを着用して行う訓練に要する費用の一部助成を実施することとしております。これは県内初であり、国内でも2番目の取組になります。

それと同時に、大型の製造業だけでなく、テナント型企業の誘致策として、26年度から新たに賃料補助を実施する予定です。これまでの減免などの制度と併せてロボット産業等の成長分野の企業誘致を進めてまいりたいと思いますので、協議会の皆様にもご協力と連携をよろしくお願いいたします。

(黒岩知事)

ありがとうございました。  
伊勢原市様いかがでしょうか。

(伊勢原市)

私どもも既存企業の掘り起こしと新たな産業立地の創出の二本立てを進めており、現在、産業立地の創出に向けて、県環境農政局を通じ、関東農政局と農振農用地の除外についての農林漁業調整を行っておるところでございますが、県と当局の規制緩和に向けた粘り強い交渉により、従来あった農振農用地の除外に対する代替地の要求というものがなく協議が整いつつある、ということが「さがみロボット産業特区」の大きな成果として挙げられると思います。

(黒岩知事)

農地法の規制緩和に向けて努力している本県としても救われるような思いであります。ぜひ今後とも頑張ってくださいと思います。

では、海老名市様はいかがでしょう。

(海老名市)

海老名市は、これまで企業立地奨励金制度というものを実施しており、本来25年度が制度の期限でございましたが、制度延長をさせていただきました。また、従来の支援に加え、固定資産税の減免制度等を追加しております。

また、市内にさがみ縦貫道路の海老名ICが開通したこともあり、車両による交通の利便性が向上したことを受け、工業系特定保留区域が2箇所ございますので、特区の制度と併せて調整していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

(黒岩知事)

ありがとうございます。

寒川町様はいかがでしょう。

(寒川町)

私どもには、さがみ縦貫道路の寒川南ICすぐ下に約23.6ヘクタールの特定保留区域がございます。そこを企業誘致に結び付けていきたいということで、現在、土地区画整理組合の設立準備会を開いて、地元の皆様のご協力を得ながら合意形成を図ってまいりたいと考えております。なるべく早く、その区画をロボット関連企業の誘致に結び付けていきたいと思っております。

また、昨年、県から寄せられた特区関連の情報について、企業に対しなるべく早くお伝えしようということで、メーリングリストを作成し、情報伝達を迅速にするようにいたしました。メーリングリストは現在100社ほど登録しておりますが、今後さらに広げたいと考えております。その効果もあったのかもしれませんが、町内の企業で実証実験を行いたいという企業が1社ございます。そこで、25年度に県が実施していた公募型実証実験支援事業について、26年度はいつごろ募集開始をするのか伺えればと思います。

(産業振興課長)

公募型につきましては、昨年度と同様に6～7月からの募集ということになるかと思いますが、もし寒川町様の方で、「ぜひこういう実証を」というお話があれば、個別にご相談いただければ、公募型の募集前に対応させていただくことが可能かどうか、積極的に検討させていただきます。

(黒岩知事)

よろしいでしょうか。

(寒川町)

はい。

(黒岩知事)

では、企業の皆様にもいくつか取組をお伺いできればと思います。  
富士ソフト様はいかがでしょうか。

(富士ソフト株)

私どもは、25年度に引続きまして、小型の人型ロボット「パルロ」を中心に活動してまいりたいと思います。25年度は、藤沢市様にご協力をいただきながら、介護施設でのロボット活用をテーマに開発や試行検証を行ってまいりましたが、26年度はさらに幅を広げて、自宅で過ごす高齢者の方々の介護予防や見守りといった分野にも取り組んでまいりたいと思います。特に、経済産業省の「ロボット介護機器開発・導入促進事業」といった、国の施策に即したプロジェクトや、27年度に改正を予定している介護保険法に向けた先駆的な取組などにチャレンジしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(黒岩知事)

ありがとうございました。  
続きましてダブル技研様はいかがでしょうか。

(ダブル技研株)

私どもは産業用ロボットを長く製作しており、ここ数年は介護や災害対応にも展開を広げてまいりました。26年度は、国や県からも支援をいただいております「D-hand」という、いろいろなものが掴めるロボットハンドの開発を進めてまいります。「D-hand」は現在主に産業用ロボットとして使用されていますが、介護または災害対応の分野にマッチングできるような改良を重ねております。併せて「D-Vision」という目の代わりになるロボットの開発も進めております。また、10年ほど前から本をめくってくれる福祉ロボットの開発もしており、こちらは販売もしております。この3つ、あるいはもう1つ現在考えているロボットの機能を融合させて、新たなシステムを考えております。この新たなシステムが26年度にある程度形になれば、さらに次の年度では実証実験の申し込みをしていきたいと考えております。

また、現在私どもは座間市にございますが、先ほど各市町の取組を伺い、負けないくらいのご支援をいただければ非常にありがたいな、と思います。よろしくお願いいたします。

(黒岩知事)

ありがとうございました。  
では、アズビル様はいかがでしょうか。

(アズビル株)

まだ「アズビル」という社名になじみにない方もいらっしゃるかと思いますが、旧社名は「山武」、その前は「山武ハネウエル」と申します。弊社は伊勢原市、寒川町、秦野市、藤

沢市（現在は技術センター）に工場があり、そこで社外向けに医療化技術などを開発しております。その関係でロボット技術にリソースをつぎ込み開発を行っております。25年度は、経産省の「ロボット介護機器開発・導入促進事業」に公募し、採択されており、7月から事業を開始、2月末にはステージゲートの審査をパスしております。内容としては、事業の分類は「移動支援」に入りますが、歩行車にアシスト機能をつけ、利用者が外出したくなるような歩行車を開発しております。また、弊社のグループ企業である、アズビルあんしんケアサポート(株)の介護サービスとの連携も考えております。26年度は、今年度ステージゲートの審査を通りましたので、継続申請を行っており、こちらが通過しましたらまた26年度として事業を継続する予定です。

「さがみロボット産業特区」に期待する点は2つあります。1つは実証実験を行うために、現在倫理審査が重要になっております。どのような観点で倫理を考えたらいいのか分からないため、支援をしていただきたいと考えております。もう1つは、実際に使われる方のご意見をいかに機器に組み込んでいくかが実用化を大きく広げることにつながるため、実証実験も非常に重要視しています。私どもの計画では、秋以降、または来年の1月ごろに実証実験ができればと考えておりますので、こちらもぜひご協力をお願いしたいと考えております。

（黒岩知事）

実証実験の倫理審査についてご意見がありました。こちらについて回答をお願いします。

（産業振興課長）

実証実験の倫理審査支援についてご質問をいただきましたが、倫理審査は大学で行っているもの、実際に病院で行っているものとありますが、それ以外のものについては、私どもが間に入り、厚生労働省の事業で倫理審査を担当している団体に依頼し、今年度は3社ほどが活用されました。その中で、倫理審査で課題を挙げられたところにつきましては、その審査団体から無償でのサポートもいただくことができ、アドバイス等を受けながら徐々に課題が改善され、最終的には皆様に納得いただく形で実証実験にこぎつけた、という経緯がございました。来年度につきましても、そういったサポートを積極的にさせていただきたいと考えております。

（黒岩知事）

よろしいでしょうか。

（アズビル株）

はい。

（黒岩知事）

では次に、日産自動車(株)様、いかがでしょうか。

（日産自動車株）

私どもは昨年の12月に県にご協力をいただき、高速道路での自動運転車の実証実験を行いました。結果は非常にうまく走らせることができ、感謝しております。今後ですが、自動運転車両を2020年に商品として世に出す予定であり、ただいま社内開発を進めているところ

です。その一方で、商品として出すのであれば、使用者の皆様にご受け入れていただかなくてはなりませんので、この新しい技術を皆様へアピールし、ご理解をいただけるように努めなければならぬと感じております。そういった面で、今後しかるべきタイミングで、県や協議会の皆様のご協力を仰ぐ場面が出てくるかと思っておりますので、その際はよろしくお願いいたします。

(黒岩知事)

ありがとうございました。  
では、三菱重工業様はいかがでしょう。

(三菱重工業様)

私どもは災害状況遠隔調査車両ロボットの開発を進めており、今年度は県と漁協の皆様にもご協力をいただき、1月21日に相模原市の河原で実証実験を行うことができました。ありがとうございました。この実証では走破、車両の基本性能を確認するというものだったのですが、結果は良好であったものの、いくつか課題も見えてまいりました。例えば水中走行時の安定性であるとか、バッテリーの寿命の問題等です。26年度はこうした問題について改良を加え、また、さらに過酷な環境での実験を検討するべく、皆様のご協力をいただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(黒岩知事)

ありがとうございました。  
他に、ご発言いただいた以外の方で、この機会に発表したいことなどございますでしょうか。

〔意見なし〕

(黒岩知事)

それでは議題1から3までが終わりましたので、最後の議題4「その他」に移ります。全体を通してのご意見、ご質問等でも結構ですが、皆様から何かありますでしょうか。

〔意見なし〕

(黒岩知事)

今回資料に添付した本特区のPRパンフレットをご覧くださいませでしょうか。なぜ本特区のイメージキャラクターに「鉄腕アトム」が選ばれたのかということですが、最後のページにも記載されておりますとおり、「鉄腕アトム」には「7つのチカラ」があります。その「7つのチカラ」を解剖してみると、本特区の生活支援ロボットになんとなく当てはまると感じるものが多いんですね。例えば「チカラその1」の10万馬力は、手足のリハビリをサポートするパワーアシストハンド・レッグのようであったり、「チカラその2」のサーチライト&カメラは、無人走行で活躍する災害状況遠隔調査車両のようであったりなど、皆様が研究・開発されている諸々のロボットがアトムの7つにぴったりだったので、これはイメージキャラクターはアトムしかないだろう、ということで決定いたしました。また、パンフレット冒頭にはシルエットのアトムが使用されており、中を開くとアニメの顔が見えているアトムが使用されております



が、私の感覚からすると、シルエットのアトムの方が今っぽいのかなと感じておりました、とりあえず第1回目のパンフレットでは顔のあるアトムを使用いたしました。これからはシルエットのアトムを押し進めたいと考えております。

また、これはフィクションではありますが、皆で知恵をしばって今後のアトムを作っていくという作業についてですが、皆様がお茶の水博士なんです、そして皆様が本物のアトムの誕生を夢見ながら一生懸命ロボットを作っている、というシナリオで未来を創造していきたいと考えております。

手塚プロダクションも、本特区のアトムの使用についてはご快諾いただきましたが、せっかくですのでもっと認知度を高めていきたいと考えております。「さがみロボット産業特区」のエリアに来ればアトムが目飛び込んで来て、いかにもロボットの街なんだということが感じられるような演出を皆様としていきたいと考えておりますので、ご協力をぜひよろしくお願いいたします。

また、先ほどダブル技研様より「融合」という言葉が出てきましたが、非常に重要なキーワードだと思います。これだけの人数の皆様が集まってくると、なかなか活発な議論という訳にはまいりませんが、これだけのメンバーが加わっている協議会ですので、様々な面で融合していきたいという思いが強いです。先ほどロボットハウス・ロボットタウンという話もさせていただきましたが、これもまさに様々な技術が融合して家になり街になってくるというものです。これだけではなく、スマートハウス・スマートタウンという言葉もありますが、これは従来、エネルギーのことを言ってきたものであり、独立型のエネルギー、分散型のエネルギー、究極的には外部に接続しなくても、その家や街のエネルギーが独立しているといった形を目指していくものであります。そういったスマートハウス・スマートタウンと、センサーが完備され見守りの機能が充実していて、何か異常があればすぐにキャッチしてくれるというロボットハウス・ロボットタウンが融合すれば、国際的に売り込める戦略的商品にもなり得ると考えております。ここでマーケットも考えなければなりません。本特区は単に研究・開発だけでなく、出口戦略、早く商品化をして生活支援ロボットを売り出していこう、というためにこの特区があるんだということを再確認していただきたいと思いますが、そのためにはマーケットということも同時に考えていきたいと思っております。特に介護・医療分野のロボットは国内でも非常に需要があるかと思っておりますが、災害対応ロボットは民間企業がどんどん買うといった性質のものではないかもしれない、公的機関が備えるものだろうと考えたときに、そのための営業を県外・国外にも広げていく必要があるのか、そういったことも視野に入れて考えていきたいと思っております。

本日はご審議誠にありがとうございました。それでは進行を事務局に返します。

(桐谷産業労働局長)

ご協議ありがとうございました。これをもちまして、第4回さがみロボット産業特区協議会を閉会させていただきます。なお、今後、この産業技術センター2階に「さがみロボット産業特区推進センター」という形で、この研究・開発、実証実験の中心地である海老名に職員を派遣し、特区の取組を推進してまいります。この後、その「さがみロボット産業特区推進センター」に看板を知事が掛ける、という催しを行いますので、お時間のある方はぜひご参加いただければと思います。

本日は誠にありがとうございました。

以上